



ベトナムにて（撮影：佐伯事務所）

ベトナムで命の洗濯。 月刊佐伯は止まらない！

一年ぶりに海外旅行に出た。ベトナム、初めての国だった。私にとって、ベトナムは、アメリカ、中国、カンボジアなど大国隣国と粘り強く戦いぬいてきた勇猛果敢な国という印象が心

佐伯通信

2011年3月（平成23）
第2号
発行
佐伯泰英事務所
担当／光文社
禁・無断転載

に深くあった。朝、到着したサイゴン（ホーチミン）の町には、ホンダと呼ばれるバイクの群れが整然かつ混沌として人や物を運ぶ奔流があった。サイゴン川の流れを見下ろす古いホテルに荷を解いた私と娘は早速サイゴン見物に出た。信号も横断歩道の数も少なく、道路の向こう側に渡るにはバイクの流れを突っ切るしかない。土地の人の後ろに従い、立ち止まらず臆せず前進することに努めた。するとバイク

佐伯泰英／近刊のお知らせ

5月 2日発売予定	4月 15日発売予定 14日発売予定	3月 29日発売予定
『熱海湯けむり』 鎌倉河岸捕物控 18	『交代寄合伊那衆異聞』 『朝廷』 『紀伊ノ変』 『居眠り磐音江戸双紙』 『双葉文庫』 『新潮文庫』 『古着屋総兵衛影始末』 『朱印』 『熱風』	『朱印』 『熱風』

★佐伯泰英事務所作成のホームページができました。
<http://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 通信 検索

この「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が下記出版社の協力のもと年七回発行いたします。
（株）光文社、（株）講談社、（株）祥伝社、（株）幻冬舎、（株）新潮社、（株）角川春樹事務所、（株）双葉社

佐伯作品 もうひとつの「味わい」

（株）光文社 文庫編集部
「吉原裏同心」「夏目影二郎始末旅」担当

松岡 俊



佐伯作品の魅力のひとつに、主人公がじつに美味しそうに食事をするシーンが挙げられる。

先日、福岡へ立ち寄った際、佐伯先生の出身地・折尾の名物である「かしわめし」をお土産に購入した。これは炊き込みご飯に鶏のそぼろと玉子と海苔を載せたシンプルな駅弁で、「うまい駅弁 JR 九州 No.1」にも選ばれたほどのものである。

この「かしわめし」、佐伯先生にとっては幼少のころの思い出の味だそうで、たまに佐伯家に来たお客さんからお土産でもらうと、姉と妹の間で争奪戦になったとか。

さて、佐伯先生、久々のかしわめしの感想は、一言「うん、美味かったよ」とニコッ。でも、この余計なものを入れない「かしわめし」にも通ずるシンプルさが佐伯作品グルメの真骨頂。佐伯作品の味わいなのである。

本書『吉原裏同心 決着』、また、光文社から刊行されているもうひとつのシリーズ『夏目影二郎始末旅』（“狩り、シリーズ”）にも、食べるシーンは満載。ぜひ、物語の筋だけでなく「食感」も読者の皆さんには堪能していただきたい。

光文社文庫の佐伯泰英2大シリーズ

『吉原裏同心』
第一巻～第十四巻

『夏目影二郎始末旅』
第一巻～第十四巻

のほろが見事にこちらを避けてくれるのだ。なんとも快感になってきた。旅に目的があったわけではない。夏に前立腺ガンを宣告された。そこで本格的な治療が始まる前に異郷の空気に触れて気分転換をしたいという思い付きからの旅だった。街歩きで見つけたレストランで名物のフォーを食し、メコンデルタからサイゴン川を遡って風に吹かれながらサイゴンまで水行する、そんな旅だった。そしてベトナムの人々の優しく、含

善に満ちた笑みが魅惑的な旅だった。気分転換は成功だったと思う、命の洗濯になった。二月に「酔いどれ小藤次留書 新春歌会」が、三月は『吉原裏同心 決着』、四月に『交代寄合伊那衆異聞 朝廷』、『居眠り磐音江戸双紙 紀伊ノ変』と続く。『月刊佐伯』はエンドレスだ。このロケーションに加え、決定版『古着屋総兵衛影始末』、『新・古着屋総兵衛』の五作がこの間に出版される。私は一応ガンを宣告され

た人間だ、それが生涯でいちばんの量産年とぶつかるとは。『月刊佐伯』と呼ばれる始めた頃、「回る独楽は倒れない、精々動きなさい」とどなたかが、呆れ顔で揶揄された。お言葉に従い、せっせと仕事をしつつ治療に専念（？）する覚悟だ。サイゴンのバイクの奔流を渡って英気を養った私です。なんとか仕事も病も乗り切るつもりです。

「佐伯通信」第3号は、4月15日発売予定の『交代寄合伊那衆異聞』、『朝廷』（講談社文庫）に入ります。